

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第96号

nanae historical
museum collection

ななえ古写真物語

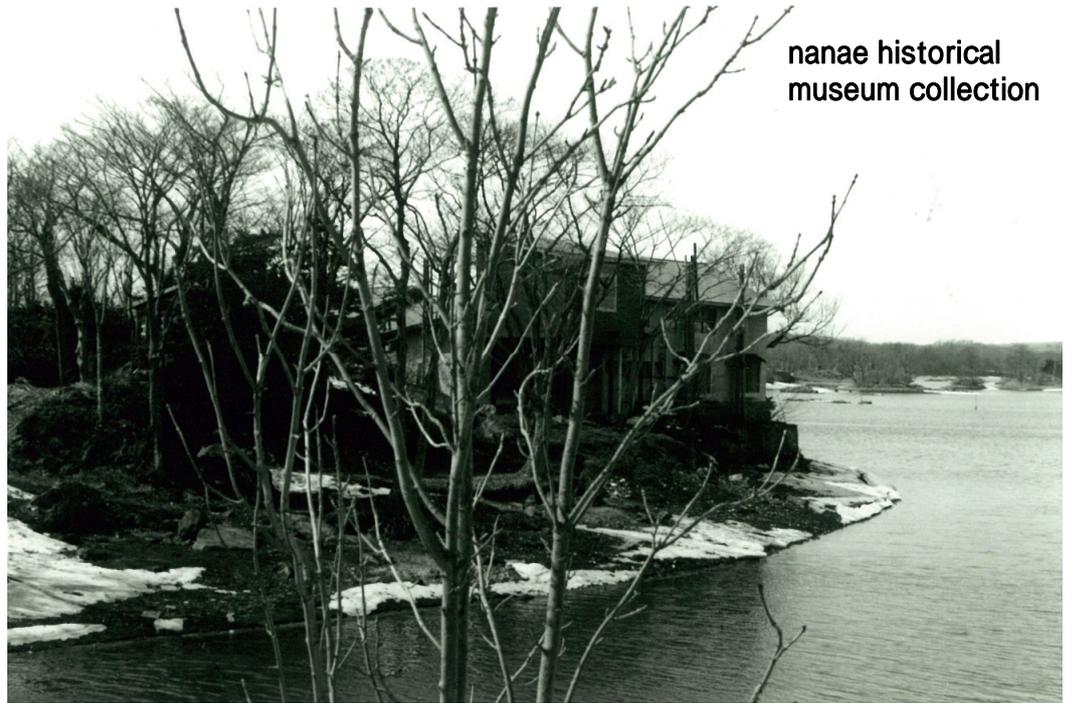
VOL. 96

水面に佇む宿

道営簡易宿舎ヒュッテ

昭和35年ころ

大沼国定公園内



大沼国定公園内には、新井 満氏が訳詩・作曲した名曲「千の風になって」が大沼で誕生したことを記念する千の風モニュメントが建立されている。場所は西大島の北東で、そこからはちょうど駒ヶ岳の姿が眼前にあり、大地と同化するかのごとく、景観を損なわない控えめなモニュメントを訪れる観光客が今なお多い。

ついこの間、町長が歌う「千の風になって」を聞く機会に恵まれ、ふと思い出した写真が、今回の一枚である。茂る木々によって分かりにくいかもしれないが、湖上に浮かぶかのごとく、建物が建てられているのがわかるだろうか。実は、この場所こそが現在モニュメントが建立されている辺りで、少し前まで、宿泊施設があったのである。今も基礎部分の残骸が残されていることから、この場所に建造物があったことが推測できるのだが、果たして気付いている人はどの位いるのだろうか。

この宿泊施設の名は「ヒュッテ」。もしかしたら「紫水荘」という名で記憶している人の方が多いかもしれない。どちらも正解である。宿泊したことのある方の話しでは、窓を開けるとすぐ下まで波が打ち寄せる、そんな情緒ある宿だったようだ。

ところで、このヒュッテ。昭和25年に道営簡易宿舎（ユースホステル）として開業した。当初は、「紫水荘」と名付けられたが、後に「道立ヒュッテ」と改称されたという。管理は、当時大沼にあった紅葉館という旅館の館主だった宮川正男があたり、収容人数30名ほどで、宿泊料は一泊250円だった。また、近くで湧出する温泉を引いて使用していたため、温水を有効利用しようと、建物の前には金魚の孵化コンクリート水槽も設置されたという。湖面に隣接する部屋からの景観は、さぞ美しかったことだろう。

設置者でもある北海道庁では、昭和25年に大沼公園整備五カ年計画を打ち立て、その後、島巡り道路の増設や整備、温泉ボーリングを行ったり、ウォーターシュートを設置するなど、大沼の公園化を推し進めた。おそらくはそういった情勢から、ヒュッテも建てられたと推測する。

多くの人に利用されたヒュッテは、昭和37年に道営から町営となり、名を開業時の「紫水荘」に改めたが、建物の老朽が著しく、昭和48年に閉鎖される。今では、風を求める人々の賑いが、栄華を忘却へと変えている。

20日

星空観察会～秋ノホシゾラを開催しました。この日は、予定日からの延期開催。準備の段階ではしっかりと星がきらめいていたのですが、開始後から段々と空が雲に覆われてしまい、残念ながら屋外での観察が出来ずに、室内でスライドを使った講座になってしまいました。

せっかくお集まりいただいたのですが、天候ばかりは私どもの力ではどうすることも出来ませんでした。参加下さった皆さま、ありがとうございました。



1月の予定

1	金	年末年始休館日
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	↓
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	成人の日
12	火	
13	水	夜の博物館
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	ジュニア探検クラブ
31	日	ふぁみりーでいみゅーじあむ

12月31日～1月5日は休館です。

バードテーブル設置しました！

今年も、バードテーブルを設置しました。カラ類が多く訪れています。午前中がねらい目のようです。是非ご覧ください。



28日

ジュニア探検クラブでは、初めてとなるプログラム「豆腐作り」に挑戦しました。レシピを頼りに、大豆をミキサーにかけ、布袋でしぼると、おからと豆乳の出来上がりです。豆乳ににがりを加え、程よく固まったものを牛乳パックにつめて3時間ほど水を切ります。その間、おからを利用して、ホットケーキを焼き、最後に試食です。

同じ材料を使いながらも、各班毎に異なる仕上がりになるものだなと思いましたが、それぞれ、おいしそうに食べていました。

箱館戦争戦死者墓碑群の標柱を新しくしました！

七飯町には、峠下地区と桜町の宝琳寺に箱館戦争の戦死者墓碑群があるのですが、このたび、宝琳寺にある標柱が、朽ち折れてしまったので、新たに作り直しました。雪の中の作業となりましたが、判読しにくかったものが改善できたのではないかと思います。ご確認ください。



編集後記 ~tawagoto~

広報ななえ12月号から、「ななえ探訪記」というタイトルで、町の史跡や文化財、巨樹・古木などを紹介するコーナーを執筆するように仰せつかった。予定では隔月掲載。おかげで、原稿に追われる日々には拍車がかかったのだが、身近に大切な町の資産があることを、多くの方へ伝える機会を頂けたのは光栄である。拙文ながらも尽力しよう・・・。計らずとも年の瀬に、新年の抱負が思いもよらぬ形で生まれたのだった。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~ 第96号

平成27年12月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp